

蜂谷戸防災かわら版

第5号

自分の命は自分で守ろう！

「近助」と「自守防災」！

平成26年5月5日

小川自治会

蜂谷戸支隊

情報・広報班

先月は、アンケートにご協力いただき誠に有難うございました。集計・分析した結果を今後の防災活動に反映させていきたいと思っております。第5号は、特集として「蜂谷戸支隊平成26年度活動計画」を少し詳しく説明いたします。そのため、連載中の“防災豆知識”と“役に立つ防災ノウハウ”のコーナーはお休みさせていただきます。

[特集] 蜂谷戸支隊・平成26年度活動計画

1. “近助”のベースであるブロック活動を活発化します

- ・阪神大震災の時には、近隣顔見知り同士による”近助“が最も役に立ったと言われています。
- ・そこで、蜂谷戸支隊では、昨年、具体的に“近助”を実行する単位として5つのブロック分けを行ないました。非常時の消火活動や避難誘導・救助活動はこのブロックが中心となります。
- ・5つのブロックは次の通りです。

Aブロック⇒7支部6班・7班	Bブロック⇒7支部2班・3班・5班	Cブロック⇒7支部1班
Dブロック⇒7支部4班	Eブロック⇒4支部1班・2班・3班	

- ・今後は、このブロック単位による防災活動を活発化したいと思います。
- ・具体的には、ブロック単位で全員が集まり顔見知りになって連帯意識を高め、防災知識を深めるための集会を開きたいと思っております。また、ブロック単位の防災訓練も計画しています。詳細は追って連絡します。

2. イザという時に備える、非常時の「行動手順書」を作ります

- ・大地震が発生した際、パニックに陥ることなく、冷静に、安全に、的確に防災活動を行うには、事前にイザという時の行動手順を具体的にまとめた「行動手順書」を作り、かつ、全員が理解しておくことが必要です。
- ・手順書を作る過程で、非常時の組織、指揮系統、情報伝達、消火、避難誘導、救出・救護等の具体的な手順・行動を、皆さんの意見を聞きながらまとめます。
- ・実際に有効な手順書を作り、その通りに動けるよう訓練を計画します。

3. 非常時用の「被害・安否確認リスト」、「要援護者リスト」を作成します

- ・先般実施したアンケートの回答を基に、「被害・避難・安否確認リスト」及び「要援護者リスト」を作成します。
- ・これらのリストを事前に準備することにより、非常時に、家屋の被害や避難・安否状況の把握、要援護者の避難支援・救出等を迅速・的確に行なうことが可能になります。

4. 各家庭の防災準備・備蓄が進むよう、PR活動をより充実します

- ・アンケートによる実態を参考にしつつ、各家庭の防災準備・備蓄が一層進むようPR活動の充実を図ります。具体的には、「防災かわら版」やブロック別集会等を活用する計画です。
- ・更に、“食料品の7日間以上備蓄”に役立つよう、具体的な「7日分の備蓄品目・量及び食事メニュー例」を作成し、皆様に配布したいと考えています。日頃実践している工夫・ノウハウがありましたら是非連絡下さい。

5. 非常時に力を発揮できるよう、防災隊の組織を更に充実させ、再編成します

- ・非常時に行動するには組織をもっと充実する必要があります。まずは活動隊員を増やすため、アンケートで隊員を募集したところ、現隊員67名に加え、20名の方から参加可能との回答をいただきました。本当にありがとうございます。今後、訪問の上参加を正式にお願いする予定です。よろしく願いいたします。
- ・次に、防災班別・地域別のバラつきを是正し、非常時の組織を整備するため蜂谷戸支隊の組織を再編成します。
- ・また、非常時の指揮系統及び情報伝達のルート・方法を明確にします。

*防災に関するご意見・ご要望、日頃の工夫等を是非お知らせください⇒担当支隊長金子郁夫（796-1569）